

出題分析		
試験時間 60分	配点 100点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問4つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。出題形式は今年もすべて記号選択問題であったが、昨年より誤文選択問題が大きく増加した。時代については、昨年より近現代史からの出題が減少した。地域については、昨年よりヨーロッパやアメリカ合衆国に関する出題が増加し、昨年・一昨年と続いた南アジアに関する大問がなくなった。容易に解答できる大問が昨年より少なく、誤文選択問題が大きく増加したことを考慮すると、全体的な難易度はやや難化したといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	東アジア史 (前近代)	(5)：明の第二代皇帝は建文帝である。彼の叔父である燕王朱棣は、靖難の役で建文帝を退けて永楽帝として即位した。(8)：15世紀前半にベトナムで成立したのは黎朝である。建国の年号が分からなくても、黎朝が永楽帝のベトナム侵攻を退けて建てられた背景を理解していれば正答を導ける。(10)：朝鮮王朝における特権身分の官僚は、両班である。なお、両班は高麗の時代から存在しており、文官(文班)と武官(武班)を総称する言葉として使われた。	やや易
II	ヨーロッパ史 (近世以降)	問2。(エ)：コーヒー(豆)はアメリカ大陸を原産とする農作物ではない。エチオピアが原産地であるという説が有力である。問9。(エ)：この時期のイギリスにおける二大政党制は、保守党と自由党によるもの。労働党は1906年に成立した。問10。(イ)：バグダード条約機構は、トルコ・イラン・イラク・パキスタン・イギリスが結成した安全保障機構であり、エジプトは参加していない。なお、イラク革命の結果、1959年にイラクが離脱した。	標準

設問別講評			
III	清代以降の中国と諸外国	問 2. (エ)：判断に迷った受験生が多かっただろう。ニクソン訪中により米中関係の正常化には合意したものの、この段階で国交は正常化していない。その後も交渉を重ね、アメリカ合衆国のカーター政権と中国の華国鋒政権のもとで 1979 年に米中国交正常化が正式に実現した。問 3. 詳細な知識が必要だが、消去法でも解答可能。(ア)：教科書で言及はあるものの、「ロシアにならった」を正しいと判断できた受験生は少なかっただろう。(ウ)：康有為は変法運動が失敗すると、梁啓超らと日本へ亡命した。問 5. (イ)：隋の大運河建設は文帝によって始められ、次の煬帝が完成させた。(ウ)：元が建設した大運河で大都と結ばれたのは、広州ではなく杭州である。問 8：福建省は台湾の対岸に位置する。問 14：イリが新疆に位置すると理解していれば、(キ)が正答であるとわかる。	やや難
IV	20 世紀以降の欧米史	(2). 戦いの詳細まで覚えておらず、盲点だった受験生もいただろう。(ウ)：フランス軍はマルヌの戦いでドイツ軍の進撃を阻み、ドイツ軍の短期決戦計画を挫折させた。(4). やや難問。(ア)：シュペングラーはキリスト教文明の優越性やヨーロッパ中心史観を批判した。問 5. (ア)：ペロン大統領はアメリカ資本と対立し、クーデタによって失脚した。	標準

合格のための学習法

関西大学の入試世界史は基礎～標準レベルの知識で解答できる設問が大半であり、高得点での争いとなりやすいため、ケアレスミスは防ぎたい。教科書の内容を正確に理解しつつ、苦手な地域や時代をつくらないようにしたい。例年、近現代史からの出題が多く、また、文化史も頻出である。特に文化史は、日程によっては文化史関連の設問のみで構成された大問が出題される場合もある。資料集や用語集を活用しながら過去問演習を行い、入念に対策をおきたい。